



JSPS

日本学術振興会の次期中期目標期間に おける業務の方向性について

平成29年11月21日

日本学術振興会

安西祐一郎

日本学術振興会を取り巻く環境・課題

外部要因

学術研究の劇的な構造変革（融合性、オープンイノベーション）

⇒学術研究の国境の壁は真に取り除かれ、研究者が国内外の垣根なく協働していく時代

学術に国境がないが故の国際的な競争と協働の激化（中国の台頭、頭脳獲得競争）

⇒国際研究ネットワークの急速な発展の中で、世界のトップリーグからの脱落危機

競争力低下の原因としての研究環境の劣化（基盤的経費の減少、プロジェクト経費ヘシフト）

⇒個々の研究者が“研究する人生”を描きにくい環境

内部要因

近年の多岐にわたる事業の増大（21世紀COE、WPI、スーパーグローバル等）

⇒個々の事業を超えた統一的、統合的な方針や運用を要する事柄も増加

客観的な情報等の分析を通じた企画立案・事業運営の必要性

⇒個々の事業を超えた学術振興の効果分析や総合的な企画提案の要請

学術の成果・貢献に関する社会の理解を高める取組の重要性

⇒学術研究の重要性やJSPSの取組に関する情報発信を強化する必要

日本学術振興会の業務・組織の方向性

【国際的な学術の最前線に立つJSPSの使命】

学術の国際的な競争・協働が激化する中、
学術研究の支援と人材育成を通じ、
国境や分野の枠にとらわれず知の開拓に挑戦する一人ひとりの研究者を支える

【課題を踏まえた業務・組織の基本的方向性】

オールJSPSとしての
戦略的な国際展開

国際的視野に立つ国内
外シームレスな事業体系

研究者を支える観点から
の総合的な企画運営

事業の枠を超えた情報
の分析活用

【中期目標・計画の方向性】

